

毎日歌壇

米川千嘉子 選

コツコツと頭でドアを叩く猫夜更けの避難所
ずぶ濡れてをり 北九州市 伊藤美津子

△評▽8月、線状降水帯発生による豪雨が
あった地域。避難所での作者の体験か。小
さな命もまた必死なのを見たのだ。

言葉なき時代は花を指さして相手の目を見て
笑ったのだろう 横浜市 友常 甘酢

△評▽ヒトはどんな時、どのように、他者
と心を通わせたいと願ったのだろう。

信号待ちの手の甲にふと流れるグレートデ
ンのなま温い息 東京 浅倉 修

うさこちゃんのお口みたいに花が咲く金木犀
を娘は愛でる 松戸市 渡邊 理紗

振り向けば五分前追ひ抜きし人ヒタリ後ろを
歩いてをりぬ さいたま市 長谷川文彦

頼んでもない機能がつくスマホ絵文字の横
のAマーク 鹿嶋市 大熊佳世子

爽秋よ老人ホームに申請す新たな門出と誰も
言わねど 野田市 石原 典武

今以て景品付きの運動会やれる地区ある話羨
む 盛岡市 舟山 治男

久々に海辺に来れば浜千鳥少女のごとく波に
たはむる 鹿嶋市 加津牟根夫

幼き日茶碗一杯十四で買ひし栗の歯ざわり
シャリッと 松戸市 加賀 昭人

加藤 治郎 選

ひとつだけ押したらすべての降りますが灯り
怖いと思う日もある 長岡市 三月 とあ

△評▽路線バスの風景である。いっせいに
紫のランプに取り囲まれる。私だけが降り
るのにみんなを巻き添えにするのだ。

森、そのな かは秋、ヒル・エ・ヴァンス、便箋
の匂い、陽の匂い、枯葉 雲南市 熱田 俊月

△評▽57577の形式でイメージが切斷
される。ジャズピアノリストの名前がよい。

眼裏に大量の羊づめていて 私が全て出産を
した 横浜市 砂月 七

過呼吸を鎮めるために冷やして夏が過ぎて
もアイスコーヒー 岐阜市 山上 秋恵

天井の天井は床になることわかしはここに
いていい感じ 奈良市 古井さらさ

秋桜を好きな女を好きになりそうな男の横顔
きれい 八尾市 瀬戸口祐子

真夜中の空へ逃がしてゆく傷のそれぞれに名
を与えてしまふ 四万十市 佐竹 紫円

晩年のマチスの切り絵みたいだね君が盛りつ
けてくれる梨は 大野城市 野分 のわ

運転手からキャブテンに名が変わり水陸両用
バス海を行く 船橋市 藤本 典裕

「臆病で愚鈍で怠惰」声出して漢字で書くこと
やや美しい 北九州市 鳴見はるみ

水原 紫苑 選

隣り合うあなたも私もまずにステンドグラ
スのごと満ち足りて 東京 遠野 鈴

△評▽ステンドグラスの輪郭がにじまずに
くっきりと分かれた線は、あるいは神の満
ち足りた心だろうか。

狼の胎へ湯舟でたどりつく 母の指輪がぜ
ったいにある 加古川市 石村 まい

△評▽大胆な確信の理由が知りたいが、そ
れはオオカミが知っている。

灯台が岬の先に立ってひたりで来たんだ
よ僕らは 枚方市 久保 哲也

金色の朝日の果汁ひとしほり街より目覚めよ秋
が始まる 甲府市 村田 一広

みづ色のタロウエイ夫人の背より落つ開架の
ラベル時のひとひら 東京 無地ムジカ

踏切の前で拾った小さき鍵それを平和とあな
たは言った 所沢市 里見 脩一

指先に空の火傷ができていく夢から覚めた蚕
のように 岡山市 松井 度

金平糖のひとつひとつに鼓動するいのちがみ
える午前二時半 横浜市 安西 大樹

この国で今年生まれた子燕が南の国へ渡る
遺伝子 倉敷市 中路 修平

この星の軸の傾き 人間は平等じゃないだ
から手を繋ぐ 熊本市 夏風かをる

伊藤 一彦 選

読み聞かせ授業参観塾送迎手作りおやつで
も反抗期 豊後大野市 菜 瑞 菜

△評▽子に愛情こめ熱心に教育に励んでき
た作者。だが「反抗期」。成長の一過程と
わかっていても予想以上にうらやましいかも。

笹船は傾きながら陽を受けてゆっくりすすむ
心理療法 春日井市 月夜の雨

△評▽心理療法をじつに巧みに詠んだ歌。
焦らず「ゆっくりすすむ」重要性の指摘。

頭頂部に小鳥を乗せたこと忘れ棄つけたまま
コンビニに行く 相模原市 榎本 ハナ

コンビニで野菜ジュースを買い足す夜 罪悪
感を薄めるために 松戸市 小林 里純

どうしようもないことだけを確信しクレール
を食む病院帰り 奈良市 久保 祐子

灰色の車道に鳩は転がってなほ紫の艶を保て
り 川崎市 梶田 宏明

若かりし日のロンドンにいつまでも溢る思い
やディケンスを読む 伊賀市 福沢 義男

綴ちなくっていい原稿をホッチキスしてくれる
のが私の夫 武蔵野市 谷口 菜月

ブルーベリー摘み残したる実を見つけ一羽の
小鳥 全収穫を終う 富田林市 小林 元子

突然に厚着になった通勤の電車にやはり扇子
欠かせず 札幌市 武者 圭司

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから
投稿できます

おこわ

次回は11日に
掲載します。